

## 海外ボランティアが副知事に出発前の表敬をしました！

令和4年12月12日（月）、独立行政法人国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊等として、令和5年1月以降に順次派遣国へ出発される神尾 若菜様（かみお わかな）さん、小林 桃子（こばやし ももこ）さん、山川 雄平（やまかわ ゆうへい）さんの3名が中村副知事を表敬しました。



神尾さんは令和5年2月から2年間の予定で中南米のポリビア多民族国に派遣されます。

現地では日本語や日本文化の継承講座などの企画、実施などを行う「コミュニティ開発」という職種に従事されます。

学生の頃海外のボランティアに積極的に参加していた神尾さんは、JICAの青年海外協力隊にすぐになりたかったそうですが、学生目線だけではなく、社会人として世の中のことを知ることも必要だと思い、大学卒業後は就職して社会経験を積んでからJICAの隊員に応募し、今回参加されるそうです。

現地の日系人社会でも日本と同じように高齢化が進んでおり、その中で生活している人々を笑顔にしたいと話していただきました。



令和5年1月からアフリカのセネガル共和国に2年間派遣される小林さんは、現地の小学校を巡回しながら子供たちに算数を教えたり、現地の教員とともに指導方法を考えたりする「小学校教育」という職種で青年海外協力隊に参加されます。

小林さんは学生の頃、海外でインターンをした時に、現地と日本の文化や生活の違いなどを実際に体験したことで、貧しい国でも豊かな心をもっている子供たちに感銘を受けたそうです。

JICAの隊員として子供たちに算数を教えるには2年以上の教員経験が必要条件だったということで、県内の小学校で講師として3年の経験を積んで、今回参加することになったそうです。





山川さんは令和5年1月末からブラジル連邦共和国で2年間 日系社会青年海外協力隊として「日本語教育」に携わります。

大学時代に行った海外で、物が豊富に無くても心が豊かな生活を送っている人々を見て、日本と海外の文化や生活の違いに興味を持ったそうです。その後はもっと日本文化を海外に広めたいと思い、在学中に日本語を教える資格を取ったり、海外で日本語を教えるボランティアに参加されていたそうです。

さらに社会に出てからも、その思いはもっと強くなり JICAに参加しようと思ったそうです。

中村副知事は、「三名とも、学生時代の海外での経験から、その後の自分の進むべき道へのステップを一つずつ自分で決めて、JICAの海外協力隊員になるという決意をされたようですね。とても素晴らしいことですね。」と感心され、「帰国後は日本にとっても、大変優秀な人材として必要な方たちになることでしょう。」「お体と安全には十分気を付けて行ってきてください。また福井に元気に帰って来てください。応援しています」と話されました。



左から小林さん、中村副知事、神尾さん、山川さん



左からJICA北陸センター 米山所長、小林さん、中村副知事、神尾さん、山川さん、福井県青年海外協力隊を支援する会 福島事務局長